

五木地域における林業の成長産業化に向けた全体構想の論点整理（案）

主 な 論 点	意 見
<p>1 関係者による森林経営の推進</p> <p>森林共同施業団地での各取組の強化及び協定者等の連携強化に向けて、例えば、以下の点についてどう考えるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 協定者が、主体的かつ柔軟に共同施業団地の運営に係る方針を決定するような仕組みを作るべきではないか。 ○ 関係者（協定者、森林管理局、県、市町村等）の役割を明確化しつつ、現場で使いやすく実効性の高いマスタープランとすべきではないか。 ○ これまで以上に施業集約化を効率的かつ効果的に進める手法（隣接する林地・団地との施業集約化等）を検討すべきではないか。 ○ 区域・施業方法や路網計画等の図示化を進めることが必要ではないか。 	<p>（自ら取り組みたいこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係者間で共有できる五木地域森林共同施業団地の「ビジョン」を持って取組を進めたい。「ビジョン」の期限は明確にして取組を進めたい。（日本製紙） ・ 中長期を対象期間とする事業計画を作成したい。（住友林業） ・ 協定者等との施業集約化の加速化に向けた具体的な検討（区域、時期等）を進めたい。（熊本南部署） ・ 具体的な施業計画の検討にあたって、民・国の基本的な情報をまとめた共有図面の作成を行いたい。（熊本南部署） <p>（他の協定者に期待すること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コスト削減に向けて、中長期の皆伐・間伐の集約化と一緒に検討してほしい。（日本製紙） ・ 協定区域の共通図面および森林簿について、協定者間で共有してほしい。（日本製紙） ・ 中長期の計画を検討する部会の立ち上げやコンサルによる調査を行ってほしい。（日本製紙） ・ 事業の共同実施を促進するため、協定の対象森林の情報を一元管理する森林管理システムを構築してほしい。（住友林業）

主 な 論 点	意 見
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共同施業団地の運営方針を決定するような仕組みを作ってほしい。(九州横井林業) ・ 隣接する林地・団地との施業集約化等を進めてほしい。(九州横井林業) ・ 面積割合の大きい国有林と森林整備センターが共同施業団地の取組を主導してほしい。(JAPIC) ・ 資源量を確保する観点から、森林整備・路網整備の事業量を平準化した上で、年間の生産量を検討してほしい。(JAPIC) <p>(これまでの実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営会議において情報交換を実施。(熊本南部署) ・ 施業計画の作成や施業履歴の管理等について、GISソフトを使って効率的な情報管理を実施。(住友林業)

主 な 論 点	意 見
<p>2 効率的・安定的な林業経営の推進</p> <p>効率的・安定的な林業経営をこれまで以上に進めるには、例えば、以下の点についてどう考えるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 早急に丈夫で簡易な道（林業専用道・森林作業道）を主体に路網密度を高めることが必要ではないか。地方公共団体の厳しい財政事情にも配慮しつつ、特に林地生産力が高い持続的な林業経営に適した森林について、先行的に路網を整備すべきではないか。 ○ コンテナ苗の積極活用、大苗やエリートツリーの導入等、低コスト造林の取組を進めるべきではないか。 ○ 野生鳥獣による森林被害への対策を強化すべきではないか。 ○ 花粉の少ない森林への転換に向け、花粉症対策苗木の植栽を進めるべきではないか。 	<p>（自ら取り組みたいこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主伐・再造林の拡大に向けて、低コスト造林の取組（実証及び早期普及）を進めたい。（熊本南部署） ・ 効果的な防除技術の開発等、効果的・効率的なシカ被害対策の取組を進めたい。（熊本南部署） ・ 路網の連結をこれまで以上に効率的かつ効果的に進めるなど、路網の高密度化の取組を進めたい。（熊本南部署） ・ 海外植林事業でのノウハウを活かした短伐期施業（スギ・早生樹）や低コスト造林（下刈り、除伐、間伐の省略）を行いたい。（日本製紙） ・ 素材生産の低コスト化の取組を進めたい。（住友林業） ・ エリートツリーの導入、少花粉スギへの転換の取組を進めたい。（住友林業） ・ 植栽時期の平準化に向けて、コンテナ苗の積極活用に取り組みたい。（住友林業） ・ コンテナ苗を活用して「一貫作業システム」に取り組みたい。（九州横井林業） ・ ツリーシェルターの使用による下刈りの省略に取り組みたい。（住友林業）

主 な 論 点	意 見
	<p>(他の協定者に期待すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 路網の新設に向けて、各協定者の既存路網をGIS化してほしい。(日本製紙) ・ 路網を新設する際には、機械の能力・性能を考慮した規格にしてほしい。また、動植物にも配慮した線形としてほしい。(日本製紙) ・ 高性能林業機械の導入を前提とした路網密度の向上に取り組んでほしい。(九州横井林業) ・ コンテナ苗の活用やエリートツリー及び早生広葉樹の導入など、造林・保育の低コスト化をモデル的に進めてほしい。その際は、効果検証を行ってほしい。(日本製紙) ・ 天然更新による超低コスト造林の技術開発や実証を進めてほしい。(施業ガイドブックなどの策定も)(日本製紙) ・ シカ被害対策について、単木ネット使用による副次的効果(下刈経費の軽減等)の検証をしてほしい。(日本製紙) ・ 大規模なわなの設置や集中的で大規模な駆除の実施などを検討してほしい。(日本製紙) ・ 高性能林業機械を共同で管理・運用する仕組みを構築してほしいまた、機械の稼働率を高める取組を検討してほしい。(住友林業) ・ 高性能林業機械の共同利用やリース活用によるコスト削減効果の検証をしてほしい。(日本製紙)

主 な 論 点	意 見
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 素材と製品の需給情報を川上から川下の関係者が共有できる仕組みを構築してほしい。(九州横井林業) ・ 路網整備を徹底、その費用対効果の見える化に取り組んでほしい。(JAPIC) ・ ゲームミート(ジビエ)の流通体制を構築する取組を進めてほしい。(JAPIC) <p>(これまでの実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1次協定期間内に、協定者計で1,158haの森林整備を実施。(熊本南部署) ・ 国有林に開設した路網に民有林の路網を連結し、効率的な施業に資するようそれぞれの路網を共同利用。また、民有林と民有林での路網の連結および共同利用についても実施。(熊本南部署) ・ 路網密度の向上に向けた取組を実施。(九州横井林業)

主 な 論 点	意 見
<p>3 原木供給力の拡大</p> <p>変動する国産材需要等に対応し、原木を適時適切に安定的に供給できるようにしていくため、例えば、以下の点についてどう考えるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 間伐推進に加えて、主伐・再造林等を通じた原木供給力の拡大を図るべきではないか。 ○ 素材生産及び流通に係るコスト低減を一層進める必要があるのではないか。(中間土場や集出荷施設の整備など原木の仕分け・選木機能の強化、機械の共同利用等) ○ 未利用材等を効率的に山元から集荷する方法を確立する必要があるのではないか。 ○ 川下側の需要を踏まえた素材生産が行われるよう、素材と製品の需給情報を川上から川下の関係者が共有する必要があるのではないか。 	<p>(自ら取り組みたいこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民有林と協調した国産材の安定供給の取組を引き続き進めたい。(熊本南部署) ・ 未利用材を効率的に搬出する取組を進めたい。(熊本南部署) ・ 末木枝条や根株(タンコロ)を低コストで搬出する手法を開発したい。(日本製紙、住友林業) ・ 未利用材等を効率的に山元から集荷するため、路網整備を計画的に実施してほしい。(JAPIC) ・ 路網整備に係るコスト分担のルール化を検討してほしい。(JAPIC) <p>(他の協定者に期待すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木材需要者が事業予定を検討する際の参考情報となるよう、年間の生産量を公表してほしい。(熊本南部署) ・ 末木枝条や根株(タンコロ)を集積する土場(中間土場)を新設してほしい。粉碎機、チップ車、搬送用トラクター等の導入も検討してほしい。(日本製紙、住友林業) ・ 山土場にC材専用の集積土場を確保するとともに、チップ化の方法も検討・実証してほしい。(日本製紙)

主 な 論 点	意 見
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハンドリングマシンを導入して、材料を圧縮して輸送する仕組み作りに取り組んでほしい。(日本製紙) ・ 路網整備にかかる費用と搬出費用との最適なバランスを検証してほしい。(日本製紙) ・ 早生広葉樹のバイオマス原料としての利用、用材としての利用の可能性を検証してほしい。(日本製紙) <p>(これまでの実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1次協定期間内に、協定者計で20.9kmの路網整備を実施。(熊本南部署) ・ 協定者と熊本南部森林管理署及び木材需要者の三者でシステム販売の協定を締結し、丸太のロットをまとめて安定供給。また、協定者が、合板製造業者、チップ製造業者とシステム販売の協定を締結し、丸太の供給を実施。(熊本南部署) ・ 列状間伐の導入により、安全で残存木を傷めない作業を実施。(日本製紙) ・ 山土場で仕分けを行い、製材工場への直送を実施。(住友林業) ・ 中間土場とフルトレの使用により、搬出効率を向上。(住友林業)

主 な 論 点	意 見
<p>4 担い手の確保・育成</p> <p>林業事業体の生産性の向上等に向けて、例えば、以下の点についてどう考えるか。</p> <p>○ 各事業の発注、フィールド提供や関係者の持つ技術力の活用等を通じて、林業事業体の育成に貢献すべきではないか。</p>	<p>(自ら取り組みたいこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国有林の組織・技術力、フィールド等を活かした各種研修等の取組を引き続き進めたい。(熊本南部署) ・ 林業事業体の機械化の促進や人材の育成確保に向けて、年間の事業計画の公表を進めたい。(熊本南部署) ・ 高性能林業機械の導入により、安全で効率的な集材を実現したい。(住友林業) ・ オペレータを育成する仕組みを作りたい。(住友林業) <p>(他の協定者に期待すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率的な素材生産、主伐・再造林の推進、労働安全衛生対策の推進等の課題に対応した研修を相互に実施してほしい。(熊本南部署) ・ 路網整備の推進、高性能林業機械の導入など、安全な労働環境や安定した収入を保障する取り組みを進めてほしい。(日本製紙、JAPIC) ・ オペレータ育成に必要な経費を助成する資金の確保に取り組んでほしい。(住友林業) ・ 素材生産業者の教育・訓練の場を確保してほしい。(JAPIC)

主 な 論 点	意 見
	<p>(これまでの実績)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 共同施業団地において、現地検討会を他地域の民有林関係者を招いて実施するなど、更なる集約化に向けた取組を実施。(熊本南部署)・ 高性能林業機械の導入により、担い手の確保、集材能率の向上を実現。(住友林業)

主 な 論 点	意 見
<p>5 新たな需要の創出</p> <p>地域材の新たな需要を創出していくため、例えば、以下の点についてどう考えるか。</p> <p>○ 地域材（A材等）の付加価値化につながるような取組が必要ではないか。</p> <p>○ 製材品等の輸出促進につながるような取組が必要ではないか。</p>	<p>（自ら取り組みたいこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木質バイオマスのエネルギー利用の進展に加え、CLT等新たな製品の開発・普及や木材輸出の増加など、国産材の需要変化に適切に対応できるよう適切に対応したい。（熊本南部署） ・ 木の良さや木材利用の意義などについて、一般消費者の理解の醸造を図るため、「木育」の推進等を進めたい。（熊本南部署） ・ 原木の輸出に取り組みたい。（住友林業） <p>（他の協定者に期待すること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認証材の活用など、地域材の高付加価値化の取組を進めてもらいたい。（熊本南部署） ・ 低コスト化の徹底と輸出視野に入れて需要者のニーズにあった採材に取り組んでほしい。（日本製紙） ・ 製材品等の輸出促進に向けて、製材工場との協力体制を構築してほしい。（日本製紙） ・ 東京オリンピック・パラリンピック施設での木材利用時に要求されることが想定される森林認証制度を積極的に活用してほしい。また、認証材のサプライチェーンを構築してほしい。（JAPIC）

主 な 論 点	意 見
6 その他	<ul style="list-style-type: none">・ 需要構造の転換にあわせたサプライチェーン全体の低コスト化が必要。(日本製紙)・ 五木地域森林共同施業団地での取組の効果を数字で示していくことが重要。(日本製紙)